



新毎日新聞

3月17日(火)

2026年(令和8年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

UACJ地球塾



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

自然と共に安心して暮らせる社会に



環境問題と理想の地球について考える「井地球塾2050×ユースミーティング」が2026年1月10日、千葉県柏市の芝浦工業大学柏中学校で開催された。参加した生徒たちは世界の現状や資源に関する話を聞いて、理想の2050年の地球の姿や、そのために今自分ができることについて考え、それぞれの言葉でまとめた。

理想の地球のために行動する 生徒たちのMOTTAI NAI宣言



私は、人々の生活や環境保護において、個人の意識や考え方がとても重要だと考えます。例えば、「みんながゴミを減らして環境を守ろう!!!」といった目標を考えるとします。しかし、「みんな」でゴミを減らす努力をしなければ、実際に影響を出せないと思

ます。2026年の時点では、やはり「今」の状況が良ければなんでも良いと考えてしまふ人がほとんどだと思えます。実際、私もそう考えてしまふことだってあります。ただ、「今」私たちが「など、自分たち中心になるのではなく、「これから」次の世代の子どものために」といった形。そして私は、未来を創り出す私たちの責任といったものを、「みんな」が意識できるような地球の姿が理想だと考えます。

「石川 春那」

私が思う2050年の地球は、みんなが笑顔で暮らせる優しい世界だ。資源は有限な



ので資源をむだにせず、くり返し使うことで、地球に優しい社会になってほしい。そうすることで、未来の人たちも安心して暮らせるのではないかと思う。また、AIに頼りすぎるのではなく、人と助け合いながら使っていくことが大切で、人が考える力を失わず、AIと良い関係をつくる必要があると思う。そして国同士の争いも、武力ではなく話し合いで解決できるような世界になって、最終的にはだれかが我慢するのではなく、みんなが幸せになって笑顔あふれる世界、地球になってほしいと思う。

「染谷 穂乃佳」

私が考える2050年の理想の地球は、自然と人が仲良く

共に生き、安心して暮らせる地球です。地球塾2050×ユースミーティングに参加して、地球温暖化やごみ問題などは、遠い未来の話ではなく、今の私たちの行動が大きく関係していると感じました。中学生の私にできることは、電気や水をこまめに消すこと、物を大切に使うこと、公共交通機関や徒歩、自転車などを使って移動すること、食品ロスを減らすことだと思います。また、学んだことを家族や友達に伝え、周りの人と一緒に行動することも大切だと感じました。小さな行動を続けることで、2050年の地球を守る力になります。

「高橋 優仁」

理想とする2050年の地球は、環境が守られていて、争いが少なくて、誰もが安心して暮らせる社会だと思います。その社会を実現させるために、まず自分は身近なことから行動していきたいと思えます。例えば、電気や水を無駄にしないこと、リサイクルを心がけること、手前どりをすることなど、日常の小さな工夫

を続けることが大切だと思います。また、世界の環境問題や、国際問題などにも関心を持ち、正しい情報を学ぶ力を身につけたいです。将来は、学んだ知識や技術を生かし、地球環境を守る取り組みなどに参加し、次の世代へとつなげる社会づくりに貢献したいと考えています。まず自分が変わることで、そして意識を持ち続けることが大事だと思います。

「開 陸宇」

僕が思う「2050年のありたい地球の姿」は、地球全体の平均気温が今現在よりも上がっていない地球です。なぜならば、地球の温暖化が進めば干ばつや水資源の減少、更には北極の水が溶け、海面上昇が起る可能性があるからです。僕の思う「2050年のありたい地球の姿」を実現するために自分ができることは二つあります。一つ目は節電です。節電をすることによってその分の電力を賄うための発電で発生するCO₂の排出を削減し、温暖化を遅らせることができるからです。二つ目は廃棄食品を減らすことです。例えば、すぐに食べるものを買う場合は手前取りを心がけたり、外食をする際に自分が食べられる量だけ注文したりすることで、CO₂の排出量を抑えることができます。

「藤浪 結妃菜」